

6―悪臭追放

旧い施設でも悪臭がないばかりか、ぴかぴか光っているのに出会うと、心から敬意を表したくなる。熊本市の慈愛園乳児院は木造の老朽施設であるが、子供のお便所までもがみがかれて、輝いていた。福祉の心がこの建物の中に籠められていると直感した。(六十三年四月改築)

新築間もないのに、悪臭が玄関口まで流れ出ているのに出会うこともある。

悪臭追放のための私たちのしていることを、一つずつ数えて見よう。

入浴そして清拭

見学者の中には、まずホーム内を見てから、「臭いがないですね。その工夫は？」と質問される方が少なくない。「すべてについて清潔にすることです」とお答えする。しかし、それは答えにならないので、説明をしていかねばなりません。

まず入浴は月、水、金の週三回。入浴の際は身につけている下着、ズボン、上着などの衣類



を着替える。

入浴のない日は、五十人全員が下半身清拭をし下着を取り替える。もはや利用者五十人中失禁しない人は殆どいないからである。朝食後、九時から東西に分かれて二台の清拭車が各居室を巡回し、自分で出来ない人は寮母が清拭をする。

取りかえた下着はすぐ洗濯に出す。お年よりはロッカーにしまいこみ、他の衣類に臭氣を移すからである。

おむつはすぐに取り替える。汚れたおむつは、ベッドの下に備え付けのふた付き容器に入れる。汚れたおむつをふたをしないまま持って歩くことはしない。排便直後は消臭スプレーを使用する。

尿器やポータブルトイレは使用直後すぐ処理する。汚れをお湯でながし、そのあと消臭剤（ポットケミ）でふく。この作業が寮母たちに定着するかどうかのポイントになる。尿器やポータブルトイレにはそれぞれカバーをかけて、むき出しにしない。（三章おむつの随時交換参照）

自立者もおむつ使用者と同じに

トイレを自力で利用できる方は十四人（自力歩行四人、補助具使用八人、車イス使用二人）。「トイレに行けた」というささやかな誇りを失わないよう、特に心を配る。

当然のことだが、汚物が流されているか、ペーパーは補充されているか、便座は汚れていな

いか。寮母たちもしばしばお年よりのトイレを使うので、それらのことはよく処理されている。こうして、悪臭の源が絶たれていることになる。

自立しているつもりの方は、汚すすぐロッカーにかくす。しかし、本人の前でその汚れ物を取り出すと、情緒不安定になるので、入浴等で不在になった時、取り出し洗って収める。

失禁した場合はそつと声がけ、他の人にわからないように衣類をかえてあげる。失禁した場所には熱いお湯でふき、消臭剤液でもう一度ふきあげる。

男性のトイレ使用者はわずか三人だが、便器の近くですでに放出。だから古くなったバスタオルをキルティングして、便器の前に敷いておく。この敷きマットを置かないと、小水はトイレの床を流れ汚し臭気のもとになる。汚れるたびにこまめに取り替える。

あつ臭いが

出勤し、玄関で何か臭いがあると、まず、要注意者の部屋に直行する。自立度の高い人たちだ。そういう時はたいいていポータブルの敷きマットがぬれている。すぐ取り換え、床をふく。

トイレにも失禁のあとがある。熱いお湯を流し、消臭剤でふき、乾いた布でふきあげる。

特養ホームでは、排泄自立者にもおむつ使用者と同じくばりをするのが基本である。

また、居室、トイレに電気消臭器をおしみなく使用し、換気扇はつけ放しにする。

(北崎ハツ子)

▼臭いを消すよりも大切なもの

朝のすがすがしい空気の中では、臭いがとくに気になります。臭いはごまかせません。敷きマットやボータブルトイレの内側、手擦りなど悪臭のもとになるものはたくさんあります。

しかし、失禁する方たちには特に気を配ります。Hさんは常時失禁があり、歩行が可能ですので、廊下、トイレ、ベッドのまわりなど常に気を付けねばなりません。安心パンツを着用してもらいましたが、自分で脱いでしまいます。

清拭時は特に念入りに行います。清拭をし、下着を交換しました。しかし、まだブーンと臭ってきます。こんなときは石鹼をつけて足をお湯で洗い、靴下、草履、着物などをすべて取り替えねばなりません。その際、失禁したことで本人が精神不安定にならないよう、話し掛けたりすることは、臭いを消すことよりも重要だと思っています。（寮母・佐藤ヨシ子）

▼脱臭機にたよらず

奈良県のある特養ホームを訪問したことです。廊下の真ん中に、大型脱臭機がどかんと置かれているのを見て、「良い思い付きだわね」と皆で話したものでした。でも、今はちがいます。脱臭機等使わずに臭いの元を無くすことが、まず、先ではないかと思えてきました。尿や便だけでなく、車椅子の清掃や座布団の取り替え、体臭や口臭の強い部屋は、空気を一、

二分入れ換えることも大事です。（寮母・羽田野幸子）

▼よだれは大変

臭いの元には、体内から出る老廃物によるものもあります。Aさんは脳性小児麻痺のため体は硬直変形し、臭いが強烈でした。主な原因はひどい虫歯と歯槽膿漏と多量のよだれです。まず、虫歯の治療を行いました。それから口臭を無くすための歯磨き、汚れた衣類の取り替えなど、徹底して清潔にすることを心がけます。歯磨きは毎食後寮母が行い、更に入浴時にも行います。口臭防止剤も今では余り必要なくなりました。

しかし、何と言っても臭いの元だったよだれの量が、一年を経過したところから次第に減ってきたことです。入居当時はよだれが多量で、一日三回から四回、前掛けを取り替え、よだれを拭くハンカチも、六、七枚かえねばなりませんでした。

今では前掛けは起床したときに一回、ハンカチも一枚ですむようになりました。はっきりとした理由は分かりませんが、十分な水分補給とバランスのとれた食事、離床による集団生活での緊張感、言語障害ではあるが会話も多くなるなど、生活環境が変わったことではないかと思われまます。

また、寝たきりの人や手足に硬直のある方は、ただれたり、白せん菌による湿疹が出来やすく、臭いも出ます。予防は、十分に空気に触れさせ乾燥させることです。アルコール綿などで

消毒し、ガーゼを当てます。表皮がただれた場合はリバガーゼで保護します。（看護婦・羽田野律子）

▼失禁を防ぐ

トイレでは、失禁などがある時は、タイルの目地に尿がしみこんでいるので、モップでふくだけではとれません。やはり、お湯や水を流してタワシで洗い、最後に消臭液でふきます。便座はそのふちも裏側もふきます。お年よりの方はトイレを使用後ペーパーを使わなかったり、汚れた手でカーテンにさわるので、カーテンもこまめに洗濯をします。しかし、何といっても失禁を防ぐことが大事です。森田さんは自力でポータブルトイレに用足しをしてくれますが、夜間よく寝入っていたり、気嫌のよくない時は時々失敗します。

夜勤の時のことです。ポータブルトイレに排尿のあとが見られません。「おしっこに行きませんか」と声をかけましたが、「ああ、せせろしい、出らん」。起きません。次の巡回で行ってみると失禁です。

今夜も「出らん、うるさい」と起きません。話題を変えてみました。「きれいな毛布ですね。柄がいいですね」。「ほんとかな？。そげえいいな？」。「とてもいいですよ、暖かそう、ちょっと手を入れさせてね」と布団に手をかけました。「冷てえ手をしち。むげねえ。あんたも早よう寝なあ」。「森田さんが、おしっこをしてくれないと、安心して寝れないの」。「人ん、しっこを心配しち寝れんなんかあるな」と笑います。「そんなら行こうか」と、ポータブルトイレに座っ

てくれました。勢いよく出る排尿の音に、「良かった。ありがとう」という私に、「人ん、しっこに礼を言うもんがあるな」とすっかり笑顔です。

相手の気嫌を損なわないよう、気長く声がけをすることは大変なようですが、失禁をさせるのもっと大変です。（寮母・三浦恵美子）

Fさんがズボンを半分おろして、危な氣に廊下に出て来ました。すでに失禁しています。部屋にはポータブルトイレを置いてあるのですが、どうしてもトイレまで行きます。排泄はトイレでなければという考えが、まだ残っているからでしょう。ぬれているズボンを下ろして、熱いお湯でふいてあげます。口をもごもご、やっと聞きとれる声で、「すまんのう」といわれます。

廊下にぼたぼた落とした汚れは、他の人にわからないようにお湯でふきます。臭いを出さないようにすることも大切ですが、トイレまで行こうとする本人の気持ちを大切にしてあげることは、もっと大切なことだと思います。（寮母・羽田野信恵）